

# かぐらおが

(題字は初代学長 山田守英氏)

## 第 76 号

平成 5 年 5 月 15 日

編集 旭川医科大学  
 厚生補導委員会  
 発行 旭川医科大学教務部学生課



写真 自動細胞解析分取装置 (ELITE)

(旭川医科大学医学部附属実験実習機器センター)

第21回入学式式辞.....学 長... 2	外国人留学生一覧..... 9
新入生記念写真..... 3	研究室紹介.....脳神経外科学講座...10
平成5年度入学者名簿..... 3	研究室紹介.....社 会 学...10
A Cool Head+A Warm Heart ...山内 一也... 4	平成4年度学士学位記授与式.....11
大学生活における自己健康管理について ...衛藤 雅昭... 5	平成5年度入学式.....11
新入生を迎えて.....熊谷 重矢... 6	新入生研修実施される.....11
新入生を迎えて.....皆川 祐子... 6	東医体総合優勝なる!.....11
平成5年度の主な行事..... 7	大学祭実行委員会より.....12
平成5年度運営組織..... 7	表紙写真の説明.....12
平成5年度大学院入学者名簿..... 7	教官の異動.....12
平成4年度学位記受領者名簿..... 7	窓 外.....吉田 逸朗...12
留学生寄稿	
日本での生活.....アレキサンダー・デラム... 8	
日本・旭川での暮らし...モハマド モザマル ホック... 9	



## 第21回入学式式辞

学長 清水 哲也

皆さん、入学おめでとう。

希望にあふれる、一人、一人の澄み切った瞳を見るにつけ、「入試」という難関に挑戦し、見事、栄冠をかちとられた皆さんへ、あらためて、心からの祝福を贈ります。

新入生の皆さんが、本日、只今から、その第一歩を踏み出そうとしている医学は、単なる浅薄な診療技術を意味するものではありません。診断や治療といった技術的な面を学ぶ前に、今、「社会」が皆さんに求めている「期待される医師像」というものが、如何なるものかを、今日という日に是非とも真剣に考えてほしいのです。

そのためには幅広い教養を身につけ、豊かな人間性、自主的な判断力を常に養い、より高度な社会性を身につける必要があります。

「初心忘るべからず」です。今日という日から始めて生涯を通して学習し、「未知なるもの」へ敢然として挑戦する勇気を持って下さい。そしてまた、ただ単に、専門分野のみにとどまらず、全般にわたる広い視野と高い見識を保持して下さい。

人間性あふれる豊かな感性と「病める人達」への限らない暖かさに満ち満ちた医学生であって欲しいのです。

さらには生命倫理に対する深い畏敬の念を片時も忘れず、常に病める人たちの立場に立つこと、つまり、人の痛みをわが痛みととらえる医療を行える医師であるためには、単に医学のみでなく、その周辺領域に係る知識と深い教養を是非とも学びとって頂きたい。

また、これからの医師は、既に病に倒れた人達をいやす努力と同様に「環境医学」にも卓越した対処能力を学びとる必要があります。

今年の9月4日、5日の両日には、新装なった「国際会議場」において、旭川医科大学が事務局となって、欧米から多数のエキスパートの参加をえて、第一回の国際臨床環境医学会議が開催されますが、地球環境の変化が疾病構造に及ぼす影響の研究などについても積極果敢にチャレンジする医学者であっ

てほしいと思います。

このように、今や医学は、そして医療は、激しく移り変わる社会事象から隔絶された「医療施設」のなかにもみ孤立して存在する状況ではなくなって来ております。

したがって6年間という限られた期間に幅広い教養と医学の専門的学習を両立させるためには、必ずしも一般教育、専門課程という型式的な区分にとられることなく、全体を一貫とした観点から考える必要があります。

旭川医科大学では、その教育効果を期待して、開学当初より6年一貫教育という思想に立脚したカリキュラムを実施しております。

一般教育は共通基礎科目、専門への基礎科目、医学との学際的学科目、医学以外の「学科目の概論」の4分野に配置されていますが、本学で実施されている、いわゆる「統合医学型」の利点は、とくに医学教育の効率化と同時に学習のモチベーションを高める効果があります。

本年は、折しも開学20周年に当り、卒業生の数も1600余名に達し、早くも本学の卒業生の中から、母校の教授の誕生を見ております。

数学や物理・化学といった基礎科目は、医学の専門課程に入る前のミニマムエッセンシャルでもあります。高度の科学技術が駆使されている「医学の最前線」で、これらの基礎科目を身につけていない学生は、将来「専門課程」の履修に際して大きな困難に直面することになります。

また同時に国際的な場で活躍するためには、語学の能力が何にもまして要求されます。

おわりに「部活」などの課外活動にも積極的に参加して強靱な肉体と強い意志力の涵養に努めて下さい。本学のキャンパスをとりまく雄大な自然が声なき声援を送ってくれることでありましょう。

希望に満ち溢れた諸君の前途に、再度祝福を送って式辞と致します。



## 平成5年度入学者名簿

氏名	氏名	氏名	氏名
----	----	----	----



## A Cool Head+A Warm Heart

数学教授 山内 一也  
(第1学年担当)

新入生の皆さん、入学おめでとう。長く厳しい受験勉強に耐え、晴れて入学を果たされた皆さんの今の気持ちは察するに余りあります。大空の下にくっきりと白く輝く大雪の峰々さえも皆さんの門出を祝福しているかのように感じられる事でしょう。これからの自分の将来に大きな期待を抱いていることと思います。しかし、また同時に山の彼方が見えぬようにどこか漠然とした不安の入り交じった心境にもあるのではないのでしょうか。医学をただ単に学問として修めるだけでなく、1人の医者として患者に接し、時にはその患者の命をも預かるという立場に立つのですから、やり甲斐のある仕事としての期待と自分はそのような医者になりえるであろうかという不安が入り交じるのは当然でありましょう。

さて本学の学生となった皆さんには次の言葉を思い出してほしいのです。(誰の言葉か忘れましたが)

### A Cool Head+A Warm Heart

この言葉は、学則の冒頭に述べられている本学の教育目標である「進歩した医学の修得」と「医の倫理に徹した高潔な人格の育成」にも相に通じるものがあります。医学は、生物学、化学、物理学、統計学等々広範囲な自然科学を基礎として成り立っている学問であります。従って日進月歩する医学の本質を真に理解するためにも、先ずこれらの分野をきっちりと固めておく必要があります。進歩した医学を修得するためには膨大な量の知識を頭に入れなければなりません。木を見て森を見ない式の学習態度は厳に慎むべきです。勿論一つ一つの本質を見ずして森の本質を理解できぬこと明らかであります。自分が今どのような森のなかを歩いているのかを常に心掛けながら学習することが大事だと思います。その上で初めて具体的な問題に対しても冷静な判断を下せる実力を身につける事が出来るのではないのでしょうか。

医学は、接する相手が人間であるが故に、自然科学としてとらえるだけでは不十分であります。そこに医者の仕事としてのやり甲斐があり同時に難しさがあります。人間或いは人間社会を研究対象として

いる分野に人文科学或いは社会科学があります。哲学、心理学を初めとするこれらの分野の講義が最初の1年半に集中的に行われます。勿論1年半の講義を学んだからといって、皆さんの人間理解が急に深まるわけではありません。これからの一生涯を通じて多くの人に接する中で、学んだ内容を皆さん自身が肉づけをし己自身の血肉としていくべき課題です。皆さんは是非ともこの人文、社会分野の講義を大切にし我々の先輩たちがどのように人間を理解してきたのか、その目、心を学びとって欲しいものです。

皆さんの大学生生活の主要部分が学業にあることは当然であります。もう一つ大事なことは友人と語り、遊ぶことでもあります。孤独にならないことです。多くの人達はサークル等に入り、先輩たちとの交わりの中で徐々に大学生活にも慣れていくものと思いますが、年に1、2回クラスコンパを行うのも良いことでしょう。

医学部は卒業生の殆ど全てが同一の職業に付くという特殊な学部です。そのためお互いに助け合う気持ちは他学部出身の学生たちよりも強いようですがその反面唯我独尊の態度に陥る危険性があります。特に本学は単科大学ですので、異なる学部の多様な学生達と交わる機会も多くありません。サークル活動、社会活動等を通じて、他大学の学生諸君と、時には酒なども酌み交わし、大いに語り合ってほしいものです。そういう交わりの中から、価値観の異なる人を許容する心、弱者を思いやる心も培われるものと思います。そして10数年後には

### A Cool Head+A Warm Heart

に更にプラスαを付け加えた花も実もある頼もしい医者になった皆さんの姿に会えるものと期待しています。



# 大学生活における自己健康管理について

内科学第二講座 助教授 衛 藤 雅 昭

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。受験勉強、入学試験、入学式、そして新たな大学生活の開始とめまぐるしい毎日をおくられていることと存じますが、旭川での新生活はいかがでしょうか。初めて親元を離れ、アパート・下宿生活をされている方も多いと思います。高校時代までは食生活を含め健康管理はほとんど親任せでよかったのですが、これからは自らの健康管理は自ら行うことを自覚すべきだと思います。医師の卵である医学生が自己の健康管理ができないようでは甚だ心もとないものです。

さて、糖尿病、高脂血症、肥満症、動脈硬化症など成人病を専門にしている関係で、成人病の予防は学生時代から始めるべきであり、それが自己健康管理につながるという観点からここに述べさせていたきたいと思います。近年、上記の疾患や高血圧、心筋梗塞、脳梗塞、悪性新生物などの成人病の増加は著しいものがあり、日本人の死因の大部分を占め、その予防は国家的規模で重要な問題の一つとなっています。子供時代の健康は殆ど親の問題とっていいのですが、その後の健康問題は体質・遺伝と関連した疾患を除いて、殆ど本人の生活の集大成されたものといってもいいかも知れません。

成人病が増加している背景として、第一に社会環境の複雑化によるストレスの増大があげられます。成人だけではなく子供も学生も、大変な精神的ストレスを受けており、このストレスの増大が成人病だけでなく、神経症の誘因ともなっています。第二に、車社会の進展と産業構造の変化に基づく運動不足があります。日本人の80%以上に運動不足が認められるといわれていますが、これは肥満をもたらし、糖尿病などの成人病の誘因となり、老化をも進行させています。第三に、食生活の変化があります。過食や動物性脂肪、コレステロールの豊富な西欧風の食事は肥満、糖尿病、高脂血症、心臓疾患の原因となりますし、肉食主義、野菜や食物繊維の不足という偏食は悪性新生物や動脈硬化症の誘因になるでしょう。そこで上手に健康管理するには、うまくストレ

スに対処し、活発な日常生活をおくり、意識的に運動を負荷し、食生活にも充分配慮することが大事といえます。

若い大学生にとっては成人病なんて関係ないとおっしゃるでしょうが、どんな年齢においても将来起こりうる成人病の予防が自己健康管理の基本と私は考えています。

もう少し付け加えさせていただきますと、まずストレスへの対処であります。私は遊びの重要性について強調したいと思います。「どんな遊びができるのか」と聞かれて答えられず、遊びを知らない、趣味の少ない人が多いように見受けられます。確かに医学部6年間で学ぶべきことは多く、うかつに学生生活を過ごしていると卒業や国家試験が危くなる心配があり、やはり医学部の場合、勉強をしなければいけないのが当然だと思います。また、医師という職業は一生が勉強の連続であります。しかし、勉強をする時間を少し割いて、遊びや趣味に用いることは気分転換にもなるし、ゆとり・くつろぎを作り、ストレスを解消する上にも大切なことだと思います。このような意味においても、運動部や文化部に所属し活動することはよいことと考えます。さらに運動部での活動は運動不足の解消にもなることでしょう。

最後に、食生活であります。過食、偏食を避け、栄養バランスのよい食事を一日3度きちんと摂取することが大事です。某大学の調査では約半数の学生の朝食抜き、また夕食の栄養素のアンバランス、特に緑黄色野菜の不足が報告されています。食事は体作り、健康の基本でありますので特に注意が必要です。

皆さんが精神的にも肉体的にも健康な学生生活をおくられますことを切望すると共に、この拙文がその一助となれば幸いです。

## 新入生を迎えて

第6学年 熊谷 亜矢

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。入学式から早くも1ヶ月が過ぎ、そろそろ新しい生活も慣れつつある時期ではないでしょうか。皆さんの目指す道へやっと最初の一步を踏み出したのですから多くの目標や抱負を胸に、有意義な学生生活を送ってほしいと思います。

6年生となった私が今一番感じていることは、学生生活は本当に短いという事です。6年間では勉強しきれないものや、身につけられない事は沢山あります。それは専門的な学問であり、また人間としての心の持ち方でもあります。

まず、日常の学業については、常に疑問を持つようにし、それに対して積極的に自ら学ぼうという態度で取り組むべきだと思います。長期休暇に旅行をしたり、クラブ活動に精を出すのも良い事です。毎日の授業をしっかりと受け、知識を積み重ねてほしいものです。絶対に無駄にはならず、学年が進むにつれ、役立ってくるはずですよ。私も臨床実習を行いつつ、授業の大切さはひしひしと感じます。

また、皆さんが目指す医師という職業は、常に病に悩む一人の人間とのかかわりです。言葉で示すのは簡単ですが、視野を広げ、自分なりの哲学を持ち、相手を思いやる気持ちを持たなければなりません。そのような事を学び、身につけることは容易ではないでしょう。しかし、短い学生生活の間にも様々な機会があるはずですよ。自分が一患者の家族となり、回復をまち望むことも、また自分が実際に病気になることもあるかもしれません。その時に感じた事を忘れないでいてほしいと思います。私も昨年春に父親を病気で亡くしましたが、療養中の2ヶ月の間に考えたことは患者さんの家族の気持ち、医師の患者さんへの接し方、死生観などでこれは今まで学んだ事の中で最も大きいことだったように感じます。悲しい経験でしたが、医学を志している者としてそのことをバネとし、より勉強する励みとなっています。

これからの6年間で皆さんも色々な事を経験するでしょう。そのひとつひとつを糧とし、将来に役立ててほしいと思います。くれぐれも健康に留意し、悔いのない思い出にのこる学生生活を送られるよう心から望み、歓迎の言葉といたします。

## 新入生を迎えて

第2学年 皆川 祐子

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。私は、まがりなりにも先輩と呼ばれる身分になり、偉そうですが、新入生の皆さんにメッセージを贈ることになりました。

皆さんは、新しい環境にはもう慣れましたか。さすが大学だけあって、全国（あるいは世界）各地から人が集まっています。また、医学部という特殊な集団であるせいでしょうか、以前に社会に出たことがある人や他の大学にも行った人、家庭を持っている人、予備校に行っていた人、つい最近まで高校生だった人、みんなごちゃ混ぜになって、医師めざして勉強しています。私の周りを見てみると、強烈な個性をもち、それぞれの価値観をもって生き生きと生きている人達が多いように思われます。どうか一年生だけでなく、いろいろな人と話してみてください。きっと、何かを得られると思います。

それから、次のことはあるお医者さんもおっしゃっていたことですが、受験勉強で思いきりなまって

しまった体に、体力をつけてあげてください。医者になると術場で何時間も立って仕事をしなければならなかったり、何かと体力を要するそうです。また本学の試験や実習は、なかなかハードなものだと言われています。幸い、旭川医大はスポーツの盛んな大学であり、旭川体育大学医学部と言われるほどです。

旭川は、寒さの厳しい所と言われますが、その代わり、春や夏は過ごしやすく、素晴らしい所だと思います。厚く雪が降り積もった大地も、雪が溶けると毎年ちゃんと、さまざまな草木が生え、花を咲かせます。今まで、ややもすると綺麗だとか、すごいか感動することを忘れがちだった私の日常に、ここでの四季は感動を与えてくれました。通学途中の家の庭先で花が次から次へと咲くのを去年見ましたが、短い自分の季節を一生懸命に頑張っているようで、目を見はるものがありました。旭川が初めての人も、そうでない人にも、これからの良い季節が待ち遠しいことでしょう。これから始まる6年間も、旭川の夏のように、一生懸命な、パワフルなものになるとよいですね。

## 平成5年度の主な行事

今年度の主な行事は次のとおりです。

4月9日	入学式
4月19日～20日	新入生研修
6月4日～6日	医大祭
9月8日	体育大会
9月22日	解剖体慰霊式
11月5日	本学記念日
	開学20周年記念行事
3月25日	学士学位記授与式

(学生課)

## 平成5年度運営組織

本学には、医学教育についての調査研究、教育課程の編集、修学指導、授業及び試験の実施、単位の修得及び履修、学籍関係等について審議する機関として教務委員会があります。

また、学生の厚生補導に関する調査研究、学生の課外活動、福利厚生等について審議する機関として厚生補導委員会があります。

両委員会の平成5年度の委員は次のとおりです。

〈教務委員会〉

委員長	東 匡 伸 (副学長)
副委員長	内 田 倅 喜 (図書館長)
委 員	山 内 一 也 (第1学年担当)
	岩 淵 次 郎 (第2学年担当)
	黒 島 晨 汎 (第3学年担当)
	山 村 晃太郎 (第4学年担当)
	飯 塚 一 (第5学年担当)
	久 保 良 彦 (第6学年担当)
	上 口 勇太郎
	塩 野 寛
	北 進 一

〈厚生補導委員会〉

委員長	東 匡 伸 (副学長)
副委員長	谷 本 光 穂
委 員	山 崎 雅 人
	平 塚 寿 章
	小 川 勝 洋
	片 桐 一
	佐 藤 洋 一
	菊 池 健次郎
	吉 田 晃 敏
	海 野 徳 二
	酒 木 保

(学生課)

## 平成5年度大学院入学者名簿

学 生 氏 名	専 攻	研究指導教官
河 井 紀一郎	細胞・器官系	石 川 睦 男
宮 本 敏 伸	細胞・器官系	石 川 睦 男
吉 江 真 澄	細胞・器官系	小 川 勝 洋
野 口 剛 志	生体情報調節系	小 宮 岸 勉
浅野目 充	生体情報調節系	海 野 徳 二
安 部 裕 介	生体情報調節系	海 野 徳 二
柏 木 雄 介	生体情報調節系	菊 池 健次郎
藤 野 貴 行	生体情報調節系	菊 池 健次郎
田 森 啓 介	生体情報調節系	牧 野 勲
野 村 雅 宏	生体情報調節系	牧 野 勲
唐 崎 秀 則	生体情報調節系	水 戸 迪 郎
小山内 誠	生体情報調節系	水 戸 迪 郎
斉 藤 智 誉	生体情報調節系	小 川 秀 道
デラム アレクサンドル	生体情報調節系	水 戸 迪 郎
ホック モハメド	生体防衛機構系	水 東 匡 伸

## 平成4年度学位記受領者名簿

氏 名	課程・論文の別	学位記授与年月日
小 池 台 介	論文博士	平成4年6月30日
小 松 田 光 悦	論文博士	平成4年6月30日
佐 崎 捷 彦	論文博士	平成4年9月30日
辻 和 重	論文博士	平成4年9月30日
岡 野 重 幸	論文博士	平成4年12月25日
斉 藤 泰 博	論文博士	平成4年12月25日
渡 邊 一 哉	論文博士	平成4年12月25日
八 幡 剛 浩	論文博士	平成5年3月25日
岡 本 清 貴	論文博士	平成5年3月25日
後 藤 英 司	論文博士	平成5年3月25日
鈴 木 伸 治	論文博士	平成5年3月25日
橋 本 喜 夫	論文博士	平成5年3月25日
藤 澤 真 兒	論文博士	平成5年3月25日
秋 山 建 兒	論文博士	平成5年3月25日
荒 川 圭 一	論文博士	平成5年3月25日
相 澤 二 希	論文博士	平成5年3月25日
稲 葉 央 子	課程博士	平成5年3月25日
久 保 田 達 也	課程博士	平成5年3月25日
西 田 靖 仙	課程博士	平成5年3月25日
中 田 俊 之	課程博士	平成5年3月25日
徳 差 良 彦	課程博士	平成5年3月25日
佐 藤 啓 介	課程博士	平成5年3月25日
山 本 和 秀	課程博士	平成5年3月25日
植 原 元 晴	課程博士	平成5年3月25日
上 北 和 実	課程博士	平成5年3月25日
谷 光 憲 己	課程博士	平成5年3月25日
中 隋 克 己	課程博士	平成5年3月25日
星 智 和	課程博士	平成5年3月25日
福 田 郁 江	課程博士	平成5年3月25日

## 日本での生活

アレキサンダーデラム



初めに、大学キャンパス情報「かぐらおか」の出版委員会の皆様が、私に上記の題で書く貴重な機会を与えて下さったことに対して、深く感謝の意を表したいと思います。

私は西アフリカの大西洋に面し、面積245,857平方キロ、5,500,000の人口をかかえるギニアから来ました Delamou Alexandre Dicko (デラム アレキサンダー ディコ)です。ギニアはよくアフリカの「給水塔」を呼ばれています。それは、アフリカの最も重要な川：ガンビア川、セネガル川、ニゲール川等がギニアより発しているからです。ギニアは海岸沿いに広がるマングローブ湿地帯、それより上に続く川や、深い谷や滝のある美しい高原を形成しているので、西アフリカの美しい国々の1つと言えます。ギニアの主要な産物は、米、とうもろこし、コーラ=ナッツ、やし油、バナナ、オレンジ、ピーナッツ、カンキツ類の果物、パイナップル、サツマイモ、タロイモ、アナナス(パイナップル的一种)です。天然資源では、ギニアはボーキサイト(アルミニウムの原鉱)の埋蔵量では世界で最も多い国の1つであり、また、金、ダイヤモンド、鉄も産出しています。

私は1957年にギニアの南部のゼレコレで生まれました。1982年にコナクリ大学を卒業し、2年間ボーキサイト会社病院(O. F. A. B-C. B. G)で働き、その後、イグナセ ディーン記念大学病院の消化器系外科部に移りました。また救急部の部長でもありました。そして、文部省奨学金で日本に来て1年半を過ぎたことになります。最初の6ヶ月は、北海道大学で日本語を学びました。日本語の勉強は難しい漢字を覚えるだけでなく、平仮名、片仮名等の言葉の記憶に随分かかりましたけれど、楽しいものでした。英語やフランス語を学ぶ時には、日本語ほど時間がかかりませんでした。1991年10月より水戸勉郎教授の指導のもとで、胃癌の内視鏡診断と外科治療を学ぶため旭川医科大学へ移りました。旭川市は札幌と比べると静かでゆっくりとしています。この環境のお陰で日々の日本の生活を落ち着いて学ぶことができました。外国で生活することは、言語、文化、生活様式等の違いにより誰にとっても必ずしも容易ではありません。日本の生活に慣れるのには

苦勞しましたがけれども、今は、次第に慣れてきて快適です。人々のこと特にその感情を理解するのに、その国の文化を事前に学んでおくことは大変大切なことだが、それには、かなりの忍耐を必要とします。

正直に言って、冬はあまり好きであるとは言えません。どちらかといえばベルギーとかフランスのような雪のほとんどない冬が好きです。私にとって、日本の食べ物は割に合う方です。“天ぷら”は私の好物でよくデザートとして頂きました。納豆の栄養価の高い点については、日本の皆さんに異論を唱えませんが、あの味については、決して良いとはいえません。これは単に個人的な感想ですので、悪しからず。

私が中学生時代に日本の歴史を学びましたが日本について具体的なイメージを抱くことはできませんでした。日本にやって来て、先ず初めに知りたかったことは、1950年頃と1990年の日本の生活で最も大きい違いは何かと言うことです。この間に対しての答えこそ日本の真の姿を言い表わしていると思うからです。人生は忍耐であると言う昔の日本の精神こそ、その答えだと思います、私達のあらゆる行動において、我慢強いことは賢明と言えます。忍耐こそほかの庭に咲かないような素晴らしい花を咲かせるからです。

日本を去ったあとは、私が学んだことをできたら医療の分野でギニアと日本の橋渡し役を果たすためにぜひ役立てたいと思います。

最後に、まだ時期的に少々早いと思いますが、日本に滞在中に私が、担当の教授、神父様方、日本のクリスチャン達や全ての団体、協会の人々からの激励と忠告を通じて受けた暖かいもてなしに対して心から感謝を申し上げます。



## 日本、旭川での暮らし

細菌学教室 モハマド モザマル ホック

(日本語訳: 秋葉 真理子)



「日本は日の出国」として小学校で習って以来、私はいつか日本に行ってみたいものだと思いつけてきました。と言うのは、イスラム教徒は1日の最初

の聖なる祈りを夜が東の空から徐々に明ける頃捧げます。10才の冬にモスク(教会)での早朝の祈りを終え、父と共に家に帰る途中、私の周囲が日の出とともにその美しさに徐々に包まれ神秘の世界へと光り輝き始めたのでした。この壮麗な日の出の美しさが鮮明に私の心に焼き付き、日の出国、日本への憧れとなりました。幸運なことに文部省の国費留学生に選ばれ念願の日本に来ています。不幸なことに家族と離れてのひとり暮らしのために朝寝坊の習慣が身に付きまだ日の出を見ることができません。日本には「早起きは三文の得」ということわざがありますので、一日も早く日の出を拝みたいと思っています。

日本に来る前に、ある日本人が冗談でこう言いました。「気をつけてね。寒い旭川で雪男にならない

ようにね！」幸いなことに、2回目の冬が過ぎ-20℃の冷え込んだ夜も経験しましたが、雪男になることもなく、元気に過ごしています。しかし一度だけ、凍りかけたことがありました。ある夜のこと、猛吹雪の音がして、屋根が吹き飛ばされ、雪の下になってしまいました。恐怖の叫び声をあげたとたんに目が醒め、夢だと気づきました。しかし私の代わりに枕もとのコップの水と水道管が凍っていたのは夢ではなく本当のことでした。寒さのことを書いているうちに、鼻水や喉の痛みが始まってきました。日本のかぜは特に私に感染し易く、治り難いようです。

私は、現在、ウイルス学を専攻し、生体のウイルス感染にたいする抵抗性のメカニズムについて研究しています。そのかわりに日本語を勉強していますので、すこしですが日本語がわかるようになってきました。でも、まだまだ「日本語は難しい」と実感しています。

約20ヵ月間家族と離れ、初めての子供の誕生にも立ち会えず寂しい思いをしている私ですが、この夏にはバングラデシュへ妻子を迎えに行く予定です。そして日本のというより、「北国」北海道の生活を家族でいっしょに過ごすことを楽しみにしています。

## 外国人留学生一覧

外国人留学生との日常の交流をとおしてお互いの友好を深めることが、国際交流の発展にもつながります。

現在、本学に在籍している外国人留学生の方は、下記の表のとおりです。

あいさつなど積極的に声をかけて下さい。

(学生課)

氏名	通称	性別	国籍	種別	期間	所属
Hoque Abu Nasar Ehsanul ホーク アブ ナサール エーサナル	ホーク	男	バングラ デシュ	大学院学生	1991. 4. 1~ 1995. 3.31	薬理学講座
談 勇 タン ユウ	タン	女	中 国	大学院学生	1992. 4. 1~ 1996. 3.31	麻酔・蘇生学講座
姜 波 健 ジャン ボジャン	ジャン	男	中 国	大学院学生	1992. 4. 1~ 1996. 3.31	外科学第二講座
Delamou Alexandre Dicko デラム アレクサンドル ディッコ	デラム	男	ギ ニ ア	大学院学生	1991.10. 1~ 1997. 3.31	外科学第二講座
Hoq Mhammd Mozammal ホック モハマド モザマル	ホック	男	バングラ デシュ	大学院学生	1991.10.18~ 1997. 3.31	細菌学講座
Duenas Julio Cesar デュエニアス フリオ セッサー	フリオ	男	ベ ル ー	研 究 生	1992.10. 1~ 1994. 3.31	産婦人科学講座
Saha Shymal Kumar シャハ シャマル クマル	シャハ	男	バングラ デシュ	研 究 生	1992.10. 1~ 1994. 3.31	生理学第一講座
Khor Lee wee コー リー ウィ	コー	男	マレーシア	学部学生	1991. 4. 1~ 1997. 3.31	第3学年学生
Santos Severino Barbosa Dos サントス セベリーノ バルボーザ ドス	サントス	男	ブラジル	研 究 生	1993. 4. 1~ 1994. 3.31	内科学第三講座

## 研究室紹介

### ■ 脳神経外科学講座 ■ 田中 達也

脳神経外科学講座は、昭和52年12月、米増祐吉教授が旭川医科大学脳神経外科教授として就任して開設された。

臨床研究では、米増教授を中心として、腫瘍班は成人および小児の悪性脳腫瘍の根本的治療、下垂体腫瘍の治療の研究をおこなっている。脳血管障害班は、虚血性脳疾患や、クモ膜下出血の治療に関する研究をおこなっている。神経生理班は難治性てんかんの外科的治療に積極的に取り組んでいる。教職員も総勢48名となり、23名の脳神経外科専門医と11名の医学博士を輩出している。平成4年度より名寄市立病院と北見赤十字病院の脳神経外科が開設され、旭川医科大学脳神経外科の基幹病院としての活躍が期待されている。

基礎的研究は、米増教授指導のもとに、積極的に行なわれている。当講座は、開設当時より外国の大学及び研究施設と交流があり、現在までに11人がアメリカ、カナダまたはフランスに留学し、帰国後は最新の研究の知識と手技で後進の研究の指導にあた

っている。〈神経生理班〉では、大神助教授を中心とした、中枢性の除痛のメカニズムに関する基礎的な研究が行なわれ、実験てんかんの研究では田中講師の開発したてんかんの慢性モデルは、人の難治性てんかんの症例に認められる海馬硬化に非常に類似していることにより国際的にも注目されている。日本てんかん学会が毎年表彰する J. A. WADA 奨励賞を、昭和58年度に田中講師が、昭和63年度は福田が、平成2年度は田中(滋)が受賞した。また、てんかん研究グループは、日本てんかん治療研究財団の平成4年度研究褒賞を受賞した。〈病理班〉では代田講師を中心に臨床の手術標本および実験の脳腫瘍の免疫組織学的研究、腫瘍細胞の培養、電子顕微鏡による微細構造の研究および橋爪助手の温熱療法法の基礎的研究等が行なわれている。〈脳循環代謝班〉では、川田助手を中心に、ラットの虚血モデルを用いて、脳内のアミノ酸のレセプターの変動や、オートラジオグラフィーを用いて種々の代謝の変化を検討している。これらの成果は、国内および国外の学術誌に多数発表しており、若い研究者の積極的な参加が期待されている。

(脳神経外科 講師)

## 研究室紹介

### ■ 社会学 ■ 松岡 悦子

長い間社会学研究室の主でおられた笹森先生の後をうけて、私がこの部屋に住むようになって2年半がたちました。当初、社会学関係のふ厚い和書・洋書がびっしり並んでいた本棚に、赤やピンクの「女性」と名のつく本が並び始めたかと思うと、今では本棚の半分が「性」や「出産」「病気」「シャーマン」などおおよそ学問らしくらぬ本で埋めつくされんばかりになってしまいました。悪本もまた良本を駆逐してしまうのでしょうか。一つの理由は、旭川に大きな本屋や図書館がないために、以前ならば立ち読みするか欲しい時に借りに行けばよかったような本まで買ってしてしまうことです。この研究室の中で自分の研究を完結させなければならぬ、いわば閉鎖系の中で研究している辛さの象徴ともいえます。その意味で外から新鮮な考えを持って来て下さる学生は、私にとってはまさにマレピト神ひじりのような存在です。かつての日本の村落生活を活気づけたのが、聖や旅芸人などの放浪する人々であったように、研究室という村落を活性化してくれるのは外からやってくる学生でしょう。そのようなわけで、社会学研究室をた

くさんのマレピトが訪れてくれることを期待しています。

さて私の研究テーマですが、医療人類学、中でも病氣治療と妊娠・出産が中心課題です。最近はお産について調べることも多くなってきていますが、出産はただ身体や医学の問題であるだけでなく、女性が自分の体をコントロールする権利という点から、フェミニズムや政治の問題(中絶論争にみられるように)とも関係してきます。また出産は育児につながりますから、女性の社会進出と子育てや社会政策、家族といった社会学の問題ともつながってきます。さらに現在の病院出産をテーマにすると、医療におけるテクノロジーの評価の問題や、近代医学のもつ価値観を扱うことにもなります。そもそも出産などという研究テーマは、個人の生活史と密接に結びついたテーマなわけですが、それが学問として成立する背景にはフェミニズムやテクノロジーの巨大化、出産・育児ビジネスの成長といった現代社会の抱える状況があるわけです。

どうやら社会学や文化人類学というのは、良くも悪くも、自分の日常生活がそのまま研究テーマになる学問、趣味と生活と職業が一致するというとても都合の良い学問のようです。

(社会学 助教授)

## 学内ニュース

### 平成4年度学士学位記授与式

平成4年度学士学位記授与式が、3月25日(木)10時30分から本学体育館で開催されました。

式では、室内合奏団が奏でる調べのなか、学長より卒業生115名(うち女子20名)一人ひとりに学士学位記が手渡されました。

ついで学長から卒業にあたり式辞が述べられました。(学生課)



### 平成5年度入学式

平成5年度入学式が、4月9日(金)10時から本学体育館において開催されました。

式では、新入生100名(うち女子35名)を代表して相沢圭さんが宣誓。ついで、学長式辞があり、新入生は医学生としての自覚をあらたに大学生活の一步を踏み出しました。

(学生課)



### 新入生研修実施される

平成5年度新入生研修が4月29日(月)・20日(火)の両日開催されました。

第1日目はA組、第2日目はB組を対象に実施されました。研修は新入生を12~13名のグループに分け、1グループに3名の若手教官が指導にあたり、自己紹介について学生生活全般にわたり助言並びに懇談が行われました。(学生課)

## 東医体総合優勝なる!

第35回東日本医科学生総合体育大会は本学が夏季・冬季大会を通し総合優勝をなし遂げました。

これは第33回大会につづいて2回目の総合優勝となります。

夏季大会で総会6位と好成绩を納め、得意の冬季大会ではアイスホッケー、スキー女子が優勝、スキー男子も準優勝と他大学を圧倒し総合優勝の原動力となりました。

### 第35回東日本医科学生総合体育大会冬季大会

種目	順位	優勝	準優勝	第3位	旭医大
ラグビー		自治	新潟	群馬	ベスト8
アイスホッケー		旭医	東京	筑波	優勝
スキー(男子)		北大	旭医	札医	準優勝
スキー(女子)		旭医	札医	秋田	優勝
総合成績		旭医	北大	札医	優勝

#### 【アルペン部門】

■男子スーパーG	■男子大回転	■男子回転
8位 竹田 真純	5位 後藤 孝	
	■女子大回転	■女子回転
	準優勝 飛世 桂	優勝 飛世 桂

#### 【クロスカントリー部門】

■男子15km	■男子8km	■男子リレー
5位 福永 亮朗	準優勝 有倉 潤	優勝 星野 丈二
8位 有倉 潤	3位 福永 亮朗	田中 和幸
	7位 星野 丈二	有倉 潤
		福永 亮朗

■女子5km	■女子3km
優勝 由良 智春	優勝 黒木 文子
準優勝 黒木 文子	準優勝 由良 智春
5位 辻 由記子	3位 辻 由記子
7位 白井和歌子	6位 白井和歌子



### 第35回東日本医科学生総合体育大会総合成績

総合順位	大学名	総合得点	夏季得点	冬季得点
優勝	旭川医科大学	89	58.5	30.5
準優勝	自治医科大学	77	67	10
3位	山形大学医学部	76.5	71.5	5

## 大学祭実行委員会より

今年のイベントは「気球遊覧」です。

グラウンドで6月5日・6日の両日実施します。

ぜひ体験搭乗してみてください。



## 表紙写真の説明

自動細胞解析分取装置 (ELITE)

レーザー・ビーム中を通過する細胞などから散乱したレーザー光と蛍光を測定し、DNA量や細胞表面抗原の種類や量を解析したり、目的の細胞を分取する装置です。

## 教官の異動

辞職	5.3.31	薬理学	助教授	市原 和夫
〃	5.3.31	泌尿器科学	助教授	徳中 莊平
〃	5.3.31	第一外科	講師	池田康一郎
〃	5.4.15	産科婦人科	講師	笠茂 光範
昇任	5.4.1	英語	助教授	山崎 雅人
〃	5.4.1	泌尿器科学	助教授	金子 茂男
〃	5.4.1	薬理学	講師	橋爪 裕子
〃	5.4.1	第一外科	講師	前田 富典
〃	5.4.1	耳鼻咽喉科	講師	金谷 健史
〃	5.5.1	泌尿器科	講師	宮田 昌伸
採用	5.4.1	麻酔・蘇生学	助教授	久保田 宗宏
〃	5.4.1	物理	講師	本間 龍也
〃	5.4.16	産科婦人科	講師	川村 光弘
停年	5.4.1	放射線医学	教授	天羽 一夫
転出	5.4.1	生理学第二	教授	森 茂美
〃	5.4.1	英語	助教授	平野日出征



## 窓外

吉田 逸朗

### 国際交流

毎年発行される旭川医科大学職員名簿には、必ず何人かの国外滞在者が記載されている。しかも、その数はこのところ増え続けているという印象を受ける。旅行者として通過するのではなく、限られた期間であっても、異国の地に住み着いて仕事をすることは、それなりの楽しさもあるが、同時にかなりの苦勞を伴う。帰国した時、髪の毛の白さが目立つようになっていた人も知っているし、私自身のことで言えば体重が減っていた（現在は、旧に復して、元の本阿弥）など、その苦勞を物語る状況証拠は数多い。

しかも、その苦勞の内容は、仕事のことより日常生活に関わる事柄が大半を占める。新しい生活を始めるための準備、すなわち住民登録手続きであり、銀行口座の開設であり、住宅賃貸契約であり、電話設置手続きであり、家族の医療保険契約であり、運転免許証取得手続きであり、ほっとする間も無く、

次は日本食品の買い出しであり、子供の幼稚園入園であり、熱を出した子供の受診であり、Visaの更新であり、車の排気ガス検査であり、なお、あれがあり、これがある。そしてこれら全てに関わる言葉の問題。日本に居てさえ面倒なこと、ましてや異国の地であってみれば、家族総出で丸1日かかる大仕事になる。思い出になってしまえば懐かしいし、家族との絆をより強くするこれらの体験もその時点ではかなり胃を痛くする事柄であった。

海外から旭川医大に来て、1年あるいはそれ以上滞りして研究に従事する人の数が増加している。細菌学教室でもバングラデシュからの留学生がウイルス学の研究を行なっている。これらの外国人留学生が、日常生活のことで胃の痛くなるようなことの無いようにと願う。出来る限りのバックアップをしたいと思う。しかし現実には完璧なバックアップは不可能に近い。私がアメリカに滞在していた時、外国人である私に課せられる諸手続き等に関しては、勤務先のボスやスタッフでもよく解らない所が多かったらしく、結局、私が自分で解決するしか無かった経験があるからだ。有難かったのは、ボスやスタッフが解らないなりにいつも気軽に相談に乗ってくれたことである。国際交流には、このごく当り前の隣人としての気遣いが伏流として流れている。

(細菌学講座 助教授)